

「全方位型の進路指導」で、 生徒一人ひとりが幸せな 未来を切り拓けるよう支援する

▶ 葛西南高校(東京・都立)

取材・文／笹原風花

「部活にせよ勉強にせよ何かをやり抜いたという成功体験やポジティブな切り口で社会を知る体験など、経験の引き出しが足りない生徒が多いと感じます。本人たちに原因があるのではなく、育ってきた環境によるところが大きいのですが、生徒は『どうせ自分なんて…』と思いがち。そうになると、新しいことへの挑戦にも消極的になってしまったり、引き出しがないがゆえに、自分には何が向いていて将来どんなことがしたいかを考えることも

1年次のインターシッピングで、「働く」のイメージを刷新する

高校入学時点で課題を抱える生徒、自己肯定感の低い生徒が多い背景には、中学校時代までの経験値不足があると前田先生は考える。

「総合的な探究の時間」のなかで進めている。1年次のテーマは、「働くことや職業・仕事について学ぶこと。生徒にとっては「働く」生活するためのお金稼ぐこと」という意識が強く、「仕方なくやるもの、つらいもの、面倒なもの」というネガティブなイメージがあるという。「お金を稼ぐための手段としてだけでなく、具体的にどんな業務やキャリアアップの道が

難しくなる。結果として、進路を消去法で選んでしまうことになりました。いやそうじゃないよ、若い君たちには可能性もチャンスもあるんだよ、やりたいことを見つけてがんばればそれを実現できるんだよ」ということを訴え、本人たちに気づかせることから、本校の進路指導は始まります」

あるのかを知り、仕事の楽しさややりがい、誇り、働く意味や価値にも目を向けてほしい」と前田先生。そのための機会として、2月に全員を対象にした2日間のインターシッピングを実施している。

昨年度はコロナ禍の影響で実施できなかったが、例年、生徒を派遣する事業所は100カ所以上。事前学習(ツール1)を重ねたうえで、インターシッピングに臨む。最初こそ教員がつなぎ役を務める



進路指導部主任(主幹教諭)
前田和也先生

進路指導の課題とテーマ

東京都江戸川区に位置する葛西南高校。市中有りつつも敷地は広く、施設・設備も充実しており、生徒たちは恵まれた環境で高校生活を送っている。「自ら判断し、律して行動する：自主」「豊かな創造力で未来を拓く：創造」「愛と責任感をはぐくむ：連帯」の教育目標のもと、教員は「チームかさなん」を合言葉に一丸となって教育活動にあたっている。

生徒の進路は、大学・短大への進学が約3割、専門学校への進学が約4割、就職が約3割と多様で、進学・就職先もさまざま。さらに近年は、進学先の幅が以前にも増して広がっている。生徒一人ひとりの希望や特性に応じた個別対応が求められるなか、「全方位型の進路指導」をモットーに、進路指導・キャリア教育を教育活動の軸に据えてきた。一方、卒業生の追跡調査により、離職者や中退者が少なからず存在することがわかっており、ミスマッチを減らすことが課題の一つとなっている。また、入学時点で、学力や家庭環境などさまざまな課題を抱えている生徒、自分に自信をもてず自己肯定感の低い生徒も多く、進路選択や将来の目標設定においても消極的になりがちで、明確な意志をもてない生徒が少なくないという現実もある。高校3年間を通してこうした生徒たちの意識をいかに変え、自らの手で未来を拓いていける状態にもっていくかが、進路指導のテーマとなっている。

○進路状況(2021年3月実績)

大学進学52人、短大進学15人、
専門学校進学92人、就職67人、
その他(受験準備など)7人

大学進学者のうち半数強が学校推薦型選抜を利用。一般選抜、総合型選抜はいずれも2割前後となっており、進学先も受験方式も多様化が進んでいる。

○School Data

1973年開校／普通科／生徒数679人(男子351人・女子328人)

ツール1 インターンシップの事前学習資料(事業所理解・自己理解) ダウンロード可

事業所理解を深めよう

自分なりに項目の進めなどをイメージし、書き込んでみよう。
全部書けたら同じ事業所のメンバーや他の事業所と見せ合おう。

①事業の内容は？ (○をつける)	建設業・製造業・情報通信業・運輸業・卸売・小売業 金融・保険・不動産業・飲食・宿泊業・医療・福祉業 教育・学習支援業・サービス業・公務員
②主な仕事内容を想像すると (相手にするお客さんはどんな人が多そうか)	
③一日の仕事の流れを想像すると	時 分 出社・午前の仕事は 時 分 全日勤務か、夜間の仕事は

自分の長所を探そう 次の項目から自分の長所を探して、○をつけよう。
付け終わったら、今回のインターンシップで生かせる長所を考えよう。

④この仕事に必要な資格・免許は	1. 指導力がある	2. 協調性がある	3. 慎重
⑤この仕事に就くまでの高校卒業後のルートは (ルート図を書いてみよう)	4. 大胆	5. 几帳面	6. 我慢強い
⑥この職業に必要な知識は (自動車免許、建築士、簿記検定、英語力、書写の資格など)	7. 賢明	8. 物知り	9. 事務的
⑦この職業に必要な技術は (体力、集中力、発想力、コミュニケーション能力、語力、計算能力、器用さ、冷静さなど)	10. 自主的	11. 世話好き	12. 約束を守る
⑧仕事の間に言葉遣いで気を配ることは	13. 理性的	14. 陽気	15. 活発
⑨仕事の順に態度で注意することは	16. 真面目	17. 穏やか	18. 親切
仕事後やけがしないように事前に注意するは	19. 冷静	20. 社交的	21. 体力がある
	22. 信念がある	23. アイデアが豊富	24. 進歩的
	25. 落ちつきがある	26. 粘り強い	27. 健康
	28. エネルギーが豊富	29. コーモアがある	30. チャレンジ精神がある
	31. 公平	32. 優しい	33. 堅実
	34. 集中力がある	35. 心がひろい	36. 親しみやすい
	37. さっぱりしている	38. 積極的	39. 素直
	40. 気取らない	41. しつこい	42. 責任感がある
	43. 礼儀正しい	44. 正直	45. 個性的
	46. 読解力がある	47. 観察力がある	48. 努力家
	49. 一生懸命	50. 思いやりがある	51. 誰か
	52. 感受性が高い	53. 決断力がある	54. 気配りができる
	55. ひかめ	56. ふんわり	57. ふんわり
	58. センズが良い	59. 好奇心旺盛	60. 適応力がある

○をつけた中で、今回のインターンシップに生かせる長所はどれか、考えてみよう。

インターンシップの事前指導では、敬語の使い方や事業所への依頼方法、電話や事前訪問の練習などを細部まで丁寧に指導。事業所理解と並行して、自己理解も深めていく。前田先生の手元には、生徒配布用の資料データが蓄積されている。

が、その後の挨拶や連絡、礼状(ツール2)の送付などはすべて生徒自身が行う。さらに、インターンシップ後には振り返り学習を行い、3月にはインターンシップ体験発表会を実施。グループごとにまとめた資料を作成し、何をしたらか、どう感じたかを発表する。

「職業体験としてドライに済ませるのでなく、インターンシップ先の従業員の方々から、どんなことを大切にしているか、どんな大変なことがあるか、やりがいは何か、といった部分まで吸収してほしいと期待しています。生徒の発表や資料を

見ていると、それぞれいろいろなことを感じたり気づいたりしているのが伝わってくるので、失敗も含めていい経験になっていると思います」

生徒の情報を「全方位」から集め、進路指導につなげる

2年次には、分野別の進路ガイダンスや面談の実施、看護や介護などの体験会やオープンキャンパスへの参加呼びかけなどを通して、生徒が自分自身の進路について深めていけるようサポートする。学

年全体を対象にしたガイダンスも行って

いるが、多様な生徒の進路希望に対応するため、個々に向けた指導を最重要視しているという。

「全体に向けた進路指導の話だと、自分ごととして受け止めることができず、情報が抜け落ちてしまう生徒が多いので、就職希望者には基本的にマンツーマン指導、進学希望者に対してでもできるだけ少人数に絞って話をしています。1回言え

ばわかる、任せておいたら自主的に動く」という生徒たちではないので、私たち教員がもう無理だと諦めてしまったら救いようがありません。気づきのタイミング

や変化のきっかけは生徒それぞれ。何度も何度も根気強く声をかける、イレギュラーなケースにもその都度対応するといった、生徒の進路実現のためには努力を惜しまない姿勢が何よりも大事だと思っています」

こうした姿勢は、前田先生や進路指導部の教員のみならず、学校全体に浸透している。同校が掲げる「全方位型の進路指導」には、「生徒の全方位に広がる多様な進路に対応した進路指導」という意味に加えて、もう一つの意味が込められているのだ。

ツール2 インターンシップの事後学習資料(礼状の書き方) ダウンロード可

礼状の書き方

※ インターンシップ実習感想を参考に、実習中の感想などを書くこと。
・ 働いている人の姿を見て、どう思ったか。
・ 自分が働いてみてどう思ったか。
・ 実習前とイメージがどう変わったか。
・ 実習の中でこれが大変だったことや見つけたやりがいは何か。
・ 実習中で一番大変だったことや見つけたやりがいは何か。
・ 自分の進路にどう役立ちそうか。

※必ず引換になるように自分で工夫して書いてください。

今後はこの貴重な体験を活かし、これからの学校生活は勿論のこと、自分自身も働き上げ、いつか成長した姿で皆様にお目にかかりたいと思います。皆様のご健康とますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

敬具

令和二年二月〇〇日

株式会社△△△ △△△様

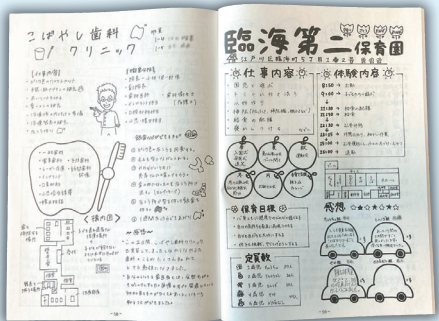
西田 みなみ

事後指導は礼状の書き方から始まり、発表用の資料・レジュメ作成や発表のノウハウなども指導する。礼状にはインターンシップ中の気づきや前後の変化、進路にどう役立ちそうかなども書くように指導。礼状を書くことが、生徒のリフレクションにもつながっている。



インターンシップ体験発表会の様子。生徒を班に分けて複数の教室で行うHR発表会の後に、代表者が1年生全員の前で行う全体発表会を実施する。

「生徒を全方位から見ると、生徒の情報を全方位から集めて進路に結びつける……という意味合いも込めています。進路指導のヒントはどこに転がっているかわかりません。そして、生徒に関する情報をいかにたくさんもっているかで、進路指導の質は大きく変わってきます。とはいえ、教員一人では限界があります。普段の生活や授業中、部活動といったさまざまなシーンで、担任や教科担当、部活の顧問などいろいろな先生が多様な切り口で一人ひとりの生徒を見て、情報をストックしていく。そして、教員間で共有する。『あの子が部活でこんなこと言っていたよ』という情報が、ヒントになり得るのです。そのためには各教員の姿勢や情報を収集するアンテナの感度、そして教員間のコミュニケーションが大事になってきますが、その素地ができているのが本校の最大の強みだと思います」



グループごとに作成した発表用資料は、実習記録や礼状など合わせて文集としてまとめている。

生徒に問いかけることで、 進路選択の理由を深掘りする

やりたいことや憧れの職業があっても、「なんとなく」で思考が止まっている生徒も多い。「それいいね」と教師が肯定するのは簡単だが、安易な選択は就職後、進学後のミスマッチにつながりかねない」と前田先生。大事にしているのが、生徒への問いかけだ。

「どうしてその分野・学校がいいと思ったのか、その仕事に就きたいと思っただけは何か、具体的にどこなところに魅力を感じているか、その進路に向けてどんな準備をしているか、その学校に入ったらいかに、将来はどうなっていきたいか……とにかく根掘り葉掘り突っ込んで聞いていきます。最初は曖昧でも、問いかけられることで生徒自身が考えるようになり、少しずつ思考が深まっていきます。就職

成果と課題

「キャリア教育優良学校」に選定！ 教科との連携、探究の進化が課題

進路指導に対する意識が高い教員が多いのが葛西南高校の特長だが、その背景には前田先生はじめ進路指導部の努力もある。かつて進路指導部内では進路別の分担当をとっていたが、全員で情報や業務を共有する方向へと転換。さらに、「情報があっても使わなければならない」と考えた前田先生は、進路関係の資料やデータを教員が見やすく使いやすいよう整備し、進路指導部の取組についても積極的に発信していった。その結果、教員間の連携は以前に増して進み、生徒の進路をみんなで考えようという空気も醸成されていった。こうした成果が評価され、「令和元年度第13回キャリア教育優良学校」として文部科学大臣表彰を受賞した。一方、課題もある。「今後、開拓しないといけないのが2年次の取組。3年生に向けて進路を決めていく時期の重要性をどう生徒たちに伝えるか、そのうえでいかに自分で考えさせるか、より詰めていく必要がある」と述べる。また、進路指導・キャリア教育と教科指導との連携強化、総合的な探究の時間の進化にも挑戦したいという。「探究については、外部と連携してやってみたいと思っています。生徒を知る私たち教員がプログラムを考えると、うちの生徒ができるのはこれくらいだろうと、無意識のうちに天井を作ってしまうんですね。生徒の可能性を広げるためにも、新しい視点を入れながら挑戦したいと思っています」

の入社試験はもとより、近年は大学入試でもプロセスが重視されるようになってきていて、志望理由や今後の目標は就職にせよ進学にせよ面接では必ず聞かれます。その対策のためにも不可欠なプロセスだと考えています」

3年次になり具体的に進路を決める段階になると、さらに個別対応の色合いが濃くなる。面接指導にも全教員が対応。職員室の前に申込用紙が用意され、生徒が教員を選べるようにしている。「話しやすい先生だけでなく、あえて苦手な先生にも面接指導をお願いするといよいよ」と前田先生はアドバイスしているという。

「国語の先生が放課後に小論文対策をしてくれたり、看護系に進みたい生徒のフォロワーを数学の先生がしてくれたり、漠然と看護教員になりたいと言っていた生徒を養護の先生が、弟子にしてくれたりと、先生方の熱意に依存している部分が大いいですね。大変ありがたいことです。公立高校の教員には異動がありますが、人が代わっても指導が継続するシステムを進路指導部として作っていく必要があると感じています」

高校での3年間で終われば、生徒たちはそれぞれの道を歩いていく。「高校を卒業して次のステージに進んだら終わり……ではない」と前田先生。「生徒の人生はずっと続いていく。5年後、10年後に幸せを感じられているか、楽しく充実した日々を送れているか、先を見据えた進路指導をする必要がある」と締め括った。